



自治体担当者のための

カラス対策

マニュアル



環境省自然環境局

自治体担当者のための

カラス対策 マニュアル



環境省自然環境局



ハシブトガラス



ハシボソガラス

はじめに

近年、カラスの話題がマスコミをにぎわすことが多くなりました。うるさい、ごみを散らかすという問題から、人が襲われるというものもあります。本マニュアルは、カラスが増えて生じている人とのさまざまな軋轢に対応している多くの自治体の担当者の方々を対象に、カラス問題に対応し解決に導くためのものとして制作されました。

都会のカラスは、都会の自然の中で野生の生活を営んでいる、もっとも身近な野鳥のひとつです。まずは、この都会のカラスの存在を認識し、カラスをよく知ることが大切です。どういう生活をしているのか、どうして増えたのか、現状を把握した上で、どのように対応すべきかを考える必要があります。そして、対策を実行にうつし、その効果を確認しつつ、さらなる施策の展開にフィードバックさせることが理想的です。

本マニュアルでは、都会のカラス問題について共通の認識に立つため、問題解決に必要な基礎知識から都会のカラスの現状を解説しました。そして、その現状認識に基づき、問題の解決に到る方法の提案までを盛り込んでいます。しかし、カラスに関しての研究は多くはありませんし、実際の対策もまだ多くは講じられていません。そのため、本マニュアルの制作にあたっては東京周辺の自治体の協力を得てモデル事業を実施しました。この結果を踏まえて、さらに最新の研究や報告を加え、少しでも実用に近づくよう配慮しました。

都会においては、カラスがうるさい、嫌いという反面、カラスに餌付けをする人がいるなど、都会のカラスとヒトとの関係もさまざまです。それだけに、野生生物だからといって生物学、なかでも生態学の分野の情報だけですむものではありません。カラスが増えたおもな原因が生ごみであることもふくめ、私たち人間の生活が深く関わっています。それだけに、解決には多岐にわたる分野からのアプローチが必要であり、問題解決までの道のりは遠く複雑であることも認識する必要があるでしょう。

都会に生活する人間は、同じ都会に適應して増えているカラスとはおそらくずっと付き合いがなくなてなりません。そのためには、カラスが好きとか嫌いという感情に押し流されることなく、現状を客観的に認識し科学的な対応をする必要があります。本書では、そのための知識と情報を盛り込んでいます。そして、対症療法的な目先だけの対策に終わらないように、根本的な解決の模索も視野に入れました。このマニュアルを、少しでも問題を解決できる方向に持っていくためにご活用いただければ幸いです。

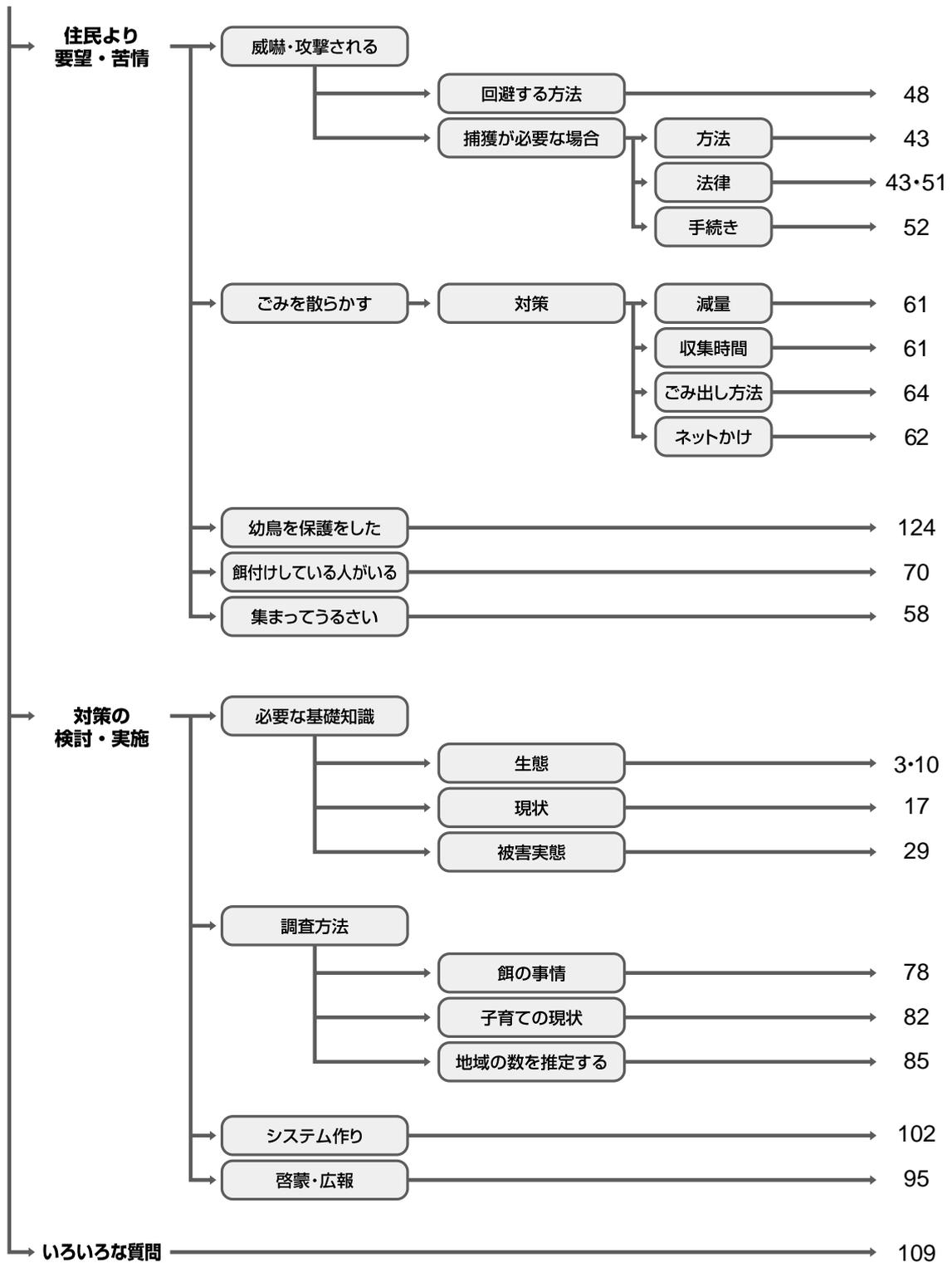
なお、本マニュアルの内容は、2001年現在の情報と考え方を含めたものです。本マニュアルの活用とカラス対策の展開により、実際の現場でより多くのことが解明され、新たな解決方法が見出されることを期待しています。

目 次

はじめに	i
問題別・簡易検索	iii
知っておいてほしい用語集	iv
I 基礎・現状編	1
1.カラスに関する基礎知識	3
1-1.カラスの種類	3
1-2.ハシブトガラスの生態	10
1-3.日本人とカラス	14
2.都市型カラスの問題と現状 - 東京を例として -	17
2-1.都市におけるカラスの変遷	17
2-2.カラスの増加	18
2-3.生態系の中のカラスの位置	22
2-4.増えた原因、増やされた要因	23
2-5.その他の食べ物	28
2-6.生活被害の実情	29
2-7.人への攻撃	31
2-8.その他の被害	36
II 対策編	37
1.対策をとるにあたって	39
2.対策の実施の前に	40
3.捕獲について	43
4.緊急対策	48
5.カラス問題とごみ対策	59
6.生息条件からみた対策	70
7.カラスの調査	75
7-1.基本と考え方	75
7-2.調査の実際	77
8.苦情、相談への対応	90
9.予防対策としての広報と啓発	95
10.体制作り	102
III 資料編	107
1.よくある質問	109
1-1.生態・行動	110
1-2.保護・管理	118
2.カラスの参考書	125
3.カラス対策関連事業	128
4.都道府県鳥獣保護担当部局一覧	130
参考文献	132
50音・索引	134

問題別・簡易検索

カラス問題発生



知っておいてほしい用語集

本マニュアルで使用している用語のうち、専門的なものや定義が必要なものについて説明しておきます。本文においても、多少の解説をしていますので、併せてご覧ください。

行動圏 食物を得るために、日常ほぼ定期的に動き回る範囲を言います。普通は、なわばりより広く持っている傾向があります。ただし、都会のハシブトガラスのようになわばりが高密度である場合、行動圏となわばりの広さや形が近いものかもしれません。

なわばり おもに繁殖の時期に、同じ種類に対して防衛する範囲をいいます。ハシブトガラスの場合、冬も同じ場所において仲間が近づくと追い払う行動が見られることがあり、一年中なわばりを守っているようです。テリトリーとも言います。

巣 繁殖期に卵を産んであたため、雛を巣立たせるまで使用する場所。巣立ちまでの子育ての期間のみ限定して使用するもので、人でいえば産院のベッドと同じくらいの使用目的のものです。基本的には巣立った後は巣に戻ることはありません。

ねぐら おもに、夜を過ごす場所。繁殖期以外、巣とは違う場所で夜を過ごすのが普通です。繁殖期は片親が巣で卵や雛を抱き、もう片親が巣の近くで眠ることもありますが、集団でねぐらに入ることもあります。

雛 卵からふ化し、巣立つまでの間、巣の中にいる状態の個体をいいます。

幼鳥 巣立ったばかりで、まだ親鳥と行動をとともにしている状態の個体をいいます。

繁殖個体 なわばりを持ち、巣を作り、卵を産み雛を育てる状態にある成鳥をいいます。

非繁殖個体 おもに繁殖年齢にいたらない若い個体をいいます。成鳥であってもなんらかの理由でなわばりを持たず、繁殖期になっても巣を作ることのできない個体を含める場合もあります。

威嚇 本マニュアルでは、巣や幼鳥を守るために大きな声をあげたり近くまで来て敵を驚かす行動をいいます。ハシブトガラスの場合、「カアカア」と短く鳴いて飛び回ったり「ガアガア」と鳴きながらとまっている枝をついたり葉や小枝を折って落とす行動をします。

攻撃 本マニュアルでは、巣や幼鳥を守るために体の一部を接触させる行動をいいます。ハシブトガラスの場合、威嚇をしても立ち去らない敵に対し、後ろから頭の上をかすめるように飛び、足で蹴る行動をします。

モニタリング 個体数、生息密度や生息環境のようす、被害の程度などの状況を継続的に調査し動向を把握することをいいます。

フィードバック 対策を講じ、その対策の効果についてのモニタリングの結果やそれによる評価をさらに対策の見直しなどに生かすことをいいます。

環境容量 環境に存在する食物や営巣場所などの資源量によって維持することのできる最大の個体の数をいいます。